

Asia Indicators

発表日: 2024 年 1 月 26 日 (金)

台湾の輸出受注は底入れの流れが一転して頭打ち (Asia Weekly(1/22~1/26))

～主力の輸出財である半導体をはじめ台湾の外需に不透明感が高まる動きが顕在化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/22(月)	(マレーシア) 12 月消費者物価(前年比)	+1.6%	+1.5%	+1.5%
	(台湾) 12 月失業率(季調済)	3.40%	--	3.37%
	12 月輸出受注(前年比)	▲16.0%	▲0.2%	+1.0%
	(香港) 12 月消費者物価(前年比)	+2.4%	--	+2.6%
1/23(火)	(シンガポール) 12 月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.5%	+3.6%
	(台湾) 12 月鉱工業生産(前年比)	▲3.99%	--	▲2.05%
1/24(水)	(ニュージーランド) 10-12 月消費者物価(前年比)	+4.7%	+4.7%	+5.6%
	(マレーシア) 金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
1/25(木)	(韓国) 10-12 月実質 GDP(前年比・速報値)	+2.2%	+2.1%	+1.4%
	(香港) 12 月輸出(前年比)	+11.0%	--	+7.4%
	12 月輸入(前年比)	+11.6%	--	+7.1%
1/26(金)	(シンガポール) 12 月鉱工業生産(前年比)	▲2.5%	+1.0%	+0.0%
	(タイ) 12 月輸出(前年比)	+4.7%	+6.0%	+4.9%
	12 月輸入(前年比)	▲3.1%	+7.2%	+10.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～底入れしてきた半導体をはじめとする輸出受注は一転して頭打ち、外需を巡る不透明感が強まる～

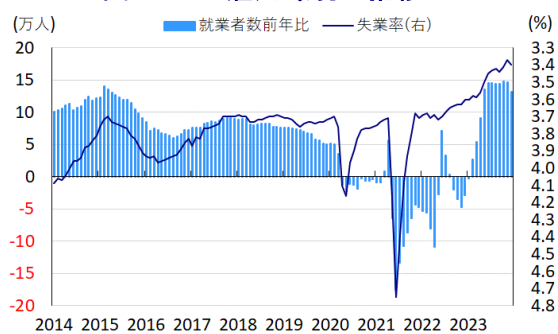
22日に発表された12月の失業率(季調済)は3.40%となり、前月(3.37%)から0.03pt悪化している。失業者数は前月比+0.3万人と前月(同▲0.4万人)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、頭打ちの動きが続いた流れに一服感が出ている兆しが出ている。新卒者を中心に失業者数が拡大している一方で自発的な失業が拡大している様子がかがえるなど、雇用を取り巻く環境が大きく変化している状況にはないと捉えられる。雇用者数は前月比+0.2万人と前月(同+0.6万人)からペースこそ鈍化するも3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、外需を巡る不透明感の高まりが製造業における雇用の重石となっているほか、商品市況の調整の動きは鉱業部門の雇用の足かせとなる一方、建設部門やサービス部門における雇用の底堅さが全体を支える展開が続いている。雇用の底堅さを反映して労働力人口も前月比+0.6万人と前月(同+0.1万人)から4ヶ月連続で拡大するなど底堅い動きがみられる。

また、同日に発表された12月の輸出受注額は前年同月比▲16.0%となり、前月(同+1.0%)から2

ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲11.59%と前月（同▲6.85%）から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、I T関連財などで下振れする動きがみられるほか、国・地域別でも最大の輸出相手である中国本土向けのほか、米国や欧州、日本といった先進国向けのみならず、ASEANなどアジア新興国向けも下振れしており、全般的に先行きの外需に下押し圧力が掛かることが予想される。

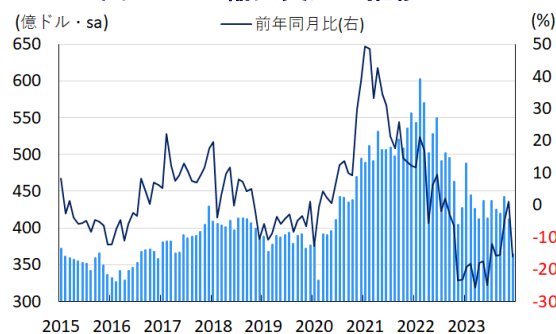
23日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比▲3.99%と19ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲2.05%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲2.29%と前月（同+0.16%）から6ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きを強めてきた流れに一服感が出ている。鉱物関連や金属関連などで生産が拡大する動きが確認される一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連やI T財など電気機械関連、輸送用機械関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、外需を巡る不透明感が高まっていることが生産活動の足かせになっているとみられる。

図1 TW 雇用環境の推移



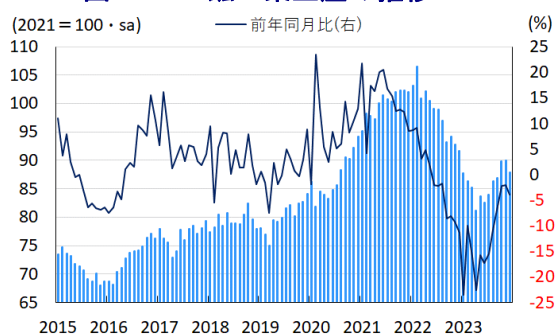
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 鉱工業生産の推移



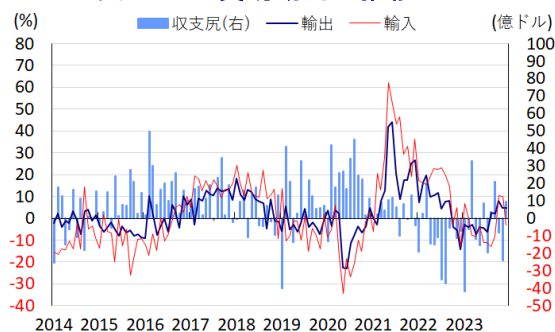
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～輸出入双方で下押し圧力が掛かる動きがみられるなか、貿易収支は3ヶ月ぶりの黒字に転じる～

26日に発表された12月の輸出額は前年同月比+4.7%となり、前月（同+4.9%）からわずかに伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である自動車や電気機械関連をはじめとする製造業関連の輸出が下振れする動きがみられるほか、石油製品関連や鉱物関連、農産品関連の輸出など全般的に輸出に下押し圧力が掛かっている様子がうかがえる。一方の輸入額は前年同

月比▲3.1%となり、前月（同+10.1%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も4ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、輸出が頭打ちの動きを強める流れに歩調を併せる形で頭打ちの動きを強めている。原油をはじめとする商品市況の調整の動きが関連の輸入額の重石となっていることに加え、輸出の低迷を反映して資本財や中間財関連の輸入を下押ししている上、消費財関連の輸入も下振れするなど全般的に頭打ちの動きを強めている。結果、貿易収支は+9.73億ドルと前月（▲23.99億ドル）から3ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図4 TH 貿易動向の推移



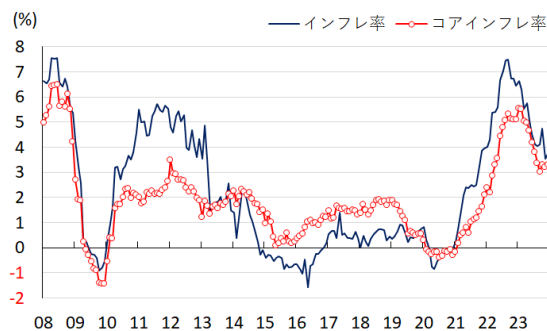
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～インフレ再燃の兆しがみられる一方、生産活動は頭打ちの様相を強める動きをみせている～

23日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+3.7%となり、前月（同+3.6%）からわずかに加速している。前月比も+0.38%と前月（同▲0.17%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の上値が抑えられる展開が続いていることを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇の動きにも一服感が出るなど、生活必需品を中心とするインフレ圧力は後退している様子がうかがえる。他方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.31%と前月（同+3.22%）から伸びが加速しており、インフレ率同様に底打ちの動きをみせている。前月比も+0.65%と前月（同+0.11%）から上昇ペースが加速しており、輸送コストが上昇の動きを強めていることを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が強まるとともに、経済活動の正常化の進展を受けてサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が強まる動きがみられる。

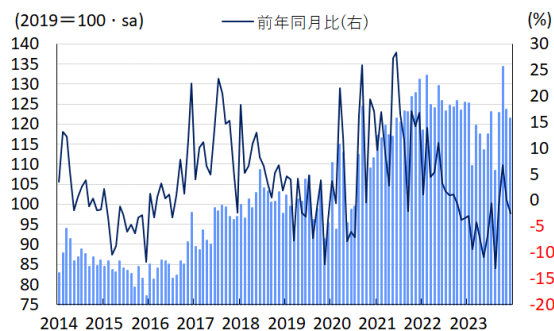
26日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比▲2.5%となり、前月（同+0.0%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲1.68%と前月（同▲8.04%）から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国ではバイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく上下に振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲24.23%と前月（同+8.27%）から3ヶ月ぶりの減少に転じる動きが確認されている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースの生産動向は前月比+3.61%と前月（同▲9.31%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向に転じるなど頭打ちの様相をみせている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は底堅く推移しているほか、化学製品関連の生産も堅調さが続いている一方、輸送用機械関連や機械製品関連の生産が弱含む動きをみせるなど跛行色が鮮明になっている。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



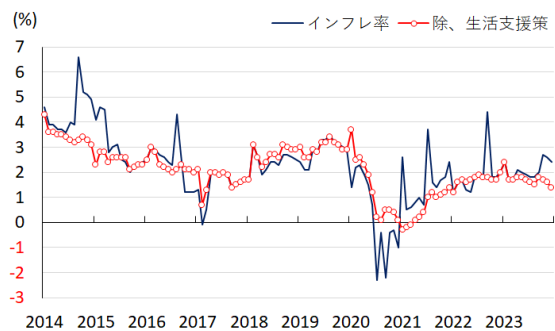
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～生活必需品を巡る物価の動きはまちまちだが、経済活動の正常化がインフレ圧力を強める動きも～

22日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+2.4%となり、前月（同+2.6%）から鈍化している。ただし、前月比は+0.09%と前月（同▲0.09%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、香港においては2007年から断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも当月は前年同月比+1.4%と前月（同+1.6%）から伸びが鈍化している。前月比も+0.09%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かっていることを受けて幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化の進展を反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる。

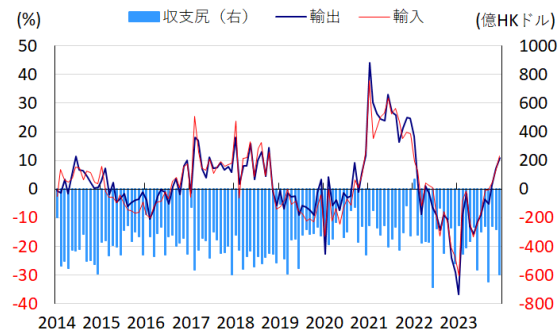
25日に発表された12月の輸出額は前年同月比+11.0%となり、前月（同+7.4%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。中国本土向けは力強さを欠く推移が続いているほか、欧州向けも頭打ちの動きを強めているものの、米国向けや日本向けは堅調な推移をみせるとともに、ASEANなどアジア新興国向けも底堅い動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+11.6%となり、前月（同+7.1%）から伸びが加速している。前月比も3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。中国本土からの輸入は堅調な推移をみせるとともに、ASEANなどアジア新興国からの中継貿易も活発化している様子がうかがえる。結果、貿易収支は▲598.62億HKドルと前月（▲279.17億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図7 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。